

平成 28 年度 第 2 回狭山市環境審議会 会議録

開催日時	平成 28 年 11 月 25 日（金）午前 10 時～12 時
開催場所	市役所 6 階 604 会議室
出席者	田邊仁委員、増田直人委員、角田ふで子委員、相澤睦夫委員、 阿部國男委員、新井孝子委員、岡村哲史委員、小川洋之委員、小菅栄委員、 近藤彰男委員、関根沙織委員、照沼拓委員
欠席者	小野田敏枝委員、後藤邦江委員、菅山紀晶委員
市側出席者	品川環境経済部長、神田環境経済部次長、淵泉資源循環推進課長、小沢奥 富環境センター所長、吉田稻荷山環境センター所長、吉田みどり公園課長、 小川環境課生活衛生担当主幹、高橋環境課環境保全担当主査、
事務局	大谷環境課長、保坂同課主幹、堀口同課主査、桑原同課主任
傍聴者	1 名

議題

- (1) 第 2 次狭山市環境基本計画改定版（素案）の検討について
- (2) その他

質疑（会議の経過）

（１）第２次狭山市環境基本計画改定版（素案）の検討について

①第１章及び第２章について

委員 P2-13 表の『２．（３）循環型社会の実現』の主な取り組みの成果にアダプトプログラムとあるが、『４．環境保全への主体的参加』の方に入るのではないのでしょうか。

説明者 現行計画では、『２．（３）循環型社会の実現』の“施策（３）-3 ごみの散乱防止対策”における個別指標（P3-38）にもアダプトプログラムを入れているため、P2-13 でも『２．（３）環境型社会の実現』に記載しているところです。今回の計画で『４．環境保全への主体的参加』にも指標として同じものを載せるかについては検討いたします。

委員 P2-14～22 の『指標の目標達成状況』において、△や×の理由の記載があった方が良くはないのでしょうか。新しい計画を作る際に、前回できなかった理由や反省点がないのには、違和感があります。

説明者 現在、P2-14～22 には具体的な理由を記載していませんが、P2-28 以降の『５．環境の現状を踏まえた課題』の整理で要約しております。１つ１つの指標の進捗理由として、明確な記載が難しい部分もあり、今現在は要約としていますが、P2-28 以降の課題の部分に反映できる部分もあると思いますので、検討します。

委員 結果と原因については、同じページに記載した方が見やすいと思います。達成状況が良くないものに関しては、簡易的でも良いので、原因を入れる方が良いと思います。

説明者 見やすい方法を検討します。

委員 現状での達成状況については、現行計画の平成 33 年度目標値に対しての達成度という認識でよろしいでしょうか。もう少し分かりやすい記載が必要かと思えます。

説明者 現行計画の平成 33 年度目標値に対しての達成度となっております。読み手が分かるような記載を検討いたします。

委員 まだ目標年度に対して途中なので、今後どうしたいかの方が重要ではないでしょうか。達成状況に関しては、毎年出している環境レポートにも記載されているので、そこに理由を記載する方法もあると思います。達成状況が悪いものについては、簡単で良いので理由を記載して頂きたいと思いま

す。

委員 P2-1 で市域面積が現行計画と異なっていますが、なぜでしょうか。
説明者 国土地理院の測量成果で変わっておりますが、市域自体は変わっておりません。

②第3章について

委員 P3-3（1）基本目標があるが、それぞれに対応する課題を簡易的にまとめて、課題と目標を同じページに記載して頂けると分かりやすいと思います。

説明者 P3-3 に課題を記載している場所（P2-28）を示すか、簡易にまとめた課題をP3-3に記載するか、書き方を検討させていただきます。

委員 P3-6 に、“環境負荷は最小限となっています。”という表現があるが、これだともう達成できているというイメージを読み手は持ってしまうと思います。が、良いのでしょうか。

説明者 P3-4～7の『基本目標』は、将来像（イメージ）を記載しているので、そのような表現にしています。

委員 全く新しい施策はどれになるのでしょうか。読み手が分かるように明記した方が良いと思います。

説明者 P3-20の『農地の保全・活用』及びP3-55の『地球温暖化への適応策』が今回新たに追加した項目になります。

委員 新しい指標については、分かりやすくマークなどを付けると良いと思います。

説明者 読み手に分かりやすく、記載を工夫いたします。

委員 新しい取り組みを追加した理由としてはどういったものがあるのでしょうか。

説明者 農地の保全活動については、改定前の計画では主に治水・保水機能として農地を捉えていましたが、狭山市では畑と雑木林の循環の取り組みが実施されているなど、農地には様々な機能があることから、施策として追加しました。温暖化による被害の軽減については、国全体として求められているものであり、関心が高まっています。このような背景から、新たな施策として必要であろうと思っています。

委員 P3-20『施策（1）-4 農地の保全・活用』の指標について、前回の資料では

- エコファーマーの認定数があつたかと思いますが、現段階では、農用地の利用集積面積（ハード面）のみとなっています。もう少し農業者と市民の意向が出るような、ソフト的な指標があつてもよいのではないかと思います。
- 説明者 エコファーマーについては、更新が難しく増加しづらいということがあり、今回外しております。確かに、農地については快適さなどの機能を有しており、エコツーリズムなど市民も関わるような指標を改めて検討します。
- 委員 P3-31の「市民1人あたりごみ処理経費の推移」ですが、平成27年度が集計中となっているのは、算出が難しいものだからでしょうか。また、平成26年度が過年度から大きく増加していますが、何か理由があるのでしょうか。
- 説明者 P3-31の平成27年度集計中の件ですが、国で全国統一の実態調査をしております。その結果が毎年3月に発表されています。現時点では国からの発表がまだのため、集計中とさせて頂いております。
- 委員 P3-32の一般苦情の件数ですが、“ポイ捨て”や“衛生害虫”は、平成24年度からだいぶ減っていますが、“雑草関係”は、あまり変化が見られません。このあたりの苦情に対する施策は何か入れているのでしょうか。
- 説明者 P3-32の一般苦情の件数ですが、平成23年から大きく減少している項目がありますが、それに関しては、注意書きにもある通り、平成23年度以前は看板の交付件数も含まれていましたが、その件数を外したため、大きく減少しています。注意書きに関しては、もう少し充実させる方向で検討いたします。
- 委員 2章では、平成22年度と平成27年度と平成33年度目標値が記載されていますが、P3-33個別指標で、平成22年度の値がないのはなぜでしょうか。
- 説明者 達成されているものや、制度がなくなっているものなどがあり、また、3章は現状とこれからの5年間を見据えた個別指標のため、現状の27年度の値と新たに設定した平成33年度の目標値の対比で表示しています。
- 委員 P3-34食品ロスの話が出ているが、狭山市で実施している食品リサイクルの取り組みはありますか。もしあれば、その取り組みを計画に盛り込むべきだと思います。
- 説明者 狭山市では約1900世帯にて、生ごみを専用バケツで収集して、市内の工場で堆肥化して（ゆうき肥狭山）、市民に提供しています。その堆肥を家庭菜園で

使用していただき、収穫物を食卓で食べる。このようなリサイクルの輪ができています。また、食品残渣は企業からの割合が多いため、個別に相談対応を実施しています。

委員 きれいなループになっている良い取り組みだと思います。ぜひもっと PR していただきたいと思います。

③第4章について

委員 P4-9に記載している“ミニエコタウン事業の促進”とは、どういったものなのか具体的に教えてください。

説明者 県が実施しているものであり、民間の事業者（住宅メーカー）が建てた既存の20戸以上の集積した街区を自選して対象となります。県や市が協働で補助金（太陽光発電のエネルギー活用や窓や家電の省エネ商品に対して）を出し、その区画でエネルギー高効率タウンを目指します。平成27年から実施しており、現在は継続中ですが、いつまで継続するかは未定です。狭山市では、今年度2か所指定されています。

委員 P4-3表の『2. 雑木林・農地の保全しよう』の落ち葉掃き体験事業と、P3-18,20 3章の施策（1）-2、4でリンクしていることが分かるように記載した方が良いと思います。

説明者 記載方法を検討します。

委員 重点プログラムの指標に、再掲とあるが、これの意味としてはどういうことですか。

説明者 改定版の中の3章に、既に記載されているもので、重複しているものを示しております。もう少し分かりやすくなるように、注意書きをするなど検討します。

委員 P4-5で、水辺生物の増加の目標数値がありませんが、なぜですか。また、どんな魚種を増やしたいのかで、取り組みが変わってくると思いますが、具体的に考えている魚種はありますか。

説明者 魚類の種類ですが、具体的な数値としてではなく、現状より少しでも増やしたいということで目標を立てております。現状の欄を含めて、書き方を工夫させていただきたいと思います。

また、魚種に関して具体的な考えはありませんが、外来種以外をターゲットとして考えております。

委員 以前は狭山市でも見られたが、現在は見られなくなってしまった種などが、市民にインパクトがあつて良いと思います。

説明者 市民にインパクトがある種として、何か良いターゲットが提案できれば、記載を検討したいと思います。

委員 P4-3 の雑木林の保全に関する取り組みは、落ち葉掃き程度が主な管理となると思いますが、萌芽更新のための伐採による管理も位置づけると良いかと思ひます。

説明者 二次林の関係ですと、確かに落ち葉掃きだけでなく、適切な伐採が柱になると思いますが、あくまでも市民が所有しているものであるため、記述可能かどうかも含め検討したいと思ひます。

④第5章について

委員 稲荷山環境センターから出ている CO₂ は加味されていますか。
燃料から出る CO₂ と紙や生ごみの焼却から出る CO₂ が入っていますか。

説明者 P5-16 の廃棄物部門（一般廃棄物）で加味されています。
また、燃料から出る CO₂ と紙や生ごみの焼却から出る CO₂ が入っています。

委員 P5-14 HFC（ハイドロフルオロカーボン）は、温室効果が高いので、その旨が分かるような表現は入れた方が良く思ひます。モントリオール議定書が最近改正されたりもしているが、それも盛り込み済みなのでしょうか。

説明者 計画を出すまでに、最新情報を踏まえ見直しをします。

委員 P5-18 から、具体的な取り組みの記載で、主体が市民や事業者の場合は、「努めます」、「拡げます」という書き方になっていますが、市としては、市民や企業との間をどのように取り持って、目標達成のために進めるのかが、分かりません。

説明者 計画自体は市が作成していますが、市民も含めた計画となります。市の補助を市民は活用するなど、市は手助けをするニュアンスとなるため、書き方としては、現在のようにしています。

委員 企業には、市から定期的に説明等の機会を設けるなどの取り組みが必要と思ひます。

説明者 現状、事業者をまわっている部署もあるので、実施している部署と連携して

広めていければと思います。

委員 意見としてですが、P5-14の『一般廃棄物の減量』とあるが、稲荷山環境センターからのCO₂排出量が多量だと思います。例えば、バイオ処理するなど、根本的に変えていかないと難しいと感じています。ある程度、検討体制を計画しておかないと、なかなか進まない可能性があると思いますので、検討をお願いします。

⑤第6章について

委員 PDCAサイクルは、CheckやActionの部分がうまくいかないことが多いと思っています。1年でのPDCAではなく、さらに細かく4半期ぐらいでやるべきだと思います。

説明者 民間の手法も参考にしつつ、検討させていただきます。

⑥全体を通したご意見

委員 最終的には、製本なのか、ホームページ上での掲載のどちらをメインで考えているのですか。それによって構成が変わると思います。

説明者 現在は、製本をメインで考えています。ホームページにも載せますが、PDFの形式で載せる程度で、リンクなどが張れる状態ではありません。今回の計画改定と同時のタイミングでは難しいですが、市民が見やすいような掲載方法を検討していきます。

委員 P4-4で記載されているイベント（灯の川）で関わっている方はボランティアが多いので、市民だけでは、取り組みに限界があると思います。行政もイベントに関わって頂ければと思います。

委員 雑木林には所有者がいるはずですが、不法投棄が目立ちます。何かパトロールなど良い案はないでしょうか。

説明者 市としては、監視カメラの設置や職員によるパトロールなどを実施しております。撤去は市民の負担がないような制度を設けておりますので、そのような制度のPRを実施しています。その他、他の市などで実施している良い案があれば、ご提案いただければと思います。

委員 意見ですが、“大腸菌群”という表現は、来年度から“大腸菌”に変更されるため、達成度が変わってくると思います。

(2) その他

○スケジュールについて

- ・ 11 月末まで、審議会委員の皆様のご意見を募集
- ・ 12 月に市議会にて説明、その後パブリックコメントを実施
- ・ 1 月後半に次の審議会（答申の内容を議題とする予定）
- ・ 3 月後半に発行予定

会議資料

- 資料-1 第2次狭山市環境基本計画改定版（素案）